

# 動きと素材の探求を通じた表現活動

## —総合表現のこころみ その2—

智原江美  
下口美帆

### I. はじめに

本学紀要第57号において、筆者らは平成26年度より実施してきた総合表現の授業に取り組みについて報告した<sup>1)</sup>。保育者を目指す学生が音楽・造形・身体・言葉の各表現分野を連携させた活動の計画・実践ができるよう、これまでは4領域に別れて実施されてきた授業を複数の表現分野を連携させた総合的な表現の授業として計画し、本来の子どもの活動に密着した表現を適切に受け止め、保育者自身も感性豊かな自由な表現を目指すことが、「総合表現」の科目を開講した目的であった。

平成27年の本学こども教育学部設立時に、保育内容の表現領域の科目として2つの領域を連携させた科目を幼稚園教員及び保育士養成課程のカリキュラムに設けた。造形表現と身体表現を連携させた科目を「保育内容V（総合表現I）（以下、科目名の「保育内容V」は省略）音楽表現と言葉表現を連携させた科目を「総合表現II」とし、2年次の履修科目とした。さらに4分野すべてを連携させた「総合表現III」を4年次科目として設け、平成30年度に開講した。

本稿では、令和元年度に開講した、造形表現と身体表現を連携させた「総合表現I」の授業の内容を整理して取り組みを振り返り、その学びを検証するとともににより豊かな感性を身につけた保育者養成に向け、今後の総合表現の授業展開に関する課題を検討することを目的とする。

### II. 授業内容の検討

既に音楽、言葉、造形、身体表現の4領域を連携させた総合的な表現活動（授業科目名：「保育内容V（総合表現III）」）の実践報告を行ったが、総合表現としていきなり4領域を連携させた活動を行うのではなく、

第一段階として「音楽I・II」「図画工作I」「体育I・II」で習得した基礎技能を活かした2領域ずつを連携させた活動を行う授業を計画し、「造形表現」と「身体表現」を連携させた活動を「総合表現I」（2年次履修、幼稚園免許取得のための必修科目）とし、「音楽表現」と音・ことばなどの表現を連携させた活動を「総合表現II」（2年次履修）として開講した。

それまで、音楽・図工・体育・言葉などの科目を個々に受講してきた学生が、表現活動は単独でなされるのではなく、様々な表現様式が複合された形で表出されることに気づくことをねらいとした。

また、平成26年に文部科学研究費助成<sup>2)</sup>を受けて行った、保育現場への「総合的な表現活動に関する調査」においては、保育現場では音楽・身体・言葉の領域は連携させた活動への取り組みが多く見られたが、造形表現活動との連携はほとんど行われていないことが明らかとなった<sup>3)</sup>。さらに、平成28年実施の保育者養成校を対象とした「総合的な表現活動の授業に関する調査」においても造形表現の授業と他の表現領域を連携させた活動はあまり見られず<sup>4)</sup>、その可能性を探ることが造形表現と身体表現を連携させた「総合表現I」の第一の目的であった。

最初の造形活動と身体活動を連携させた活動は、本学短期大学部こども保育学科における取り組みで、大型ダンボール工作としてのまと制作と、体育での投球動作を連携させた活動<sup>5)</sup>として行った。平成28年に開講した最初の「総合表現I」の授業は上述した活動を参考にしたもので、造形の領域で作成した動物の作品をもとに、身体活動としての動きのイメージを広げ、子どもたちと意思の動きで動物を表現するということを最終目的として活動であった。しかし、担当者のイメージを受講生に伝えることができず、学生の活動は動く仕組みをもった段ボール作品という具体物を用いての劇遊びという展開になってしまい、大きな課

題が残った。

平成 29 年度は科目担当者を変更したため、造形と身体表現の領域を連携させた活動には取り組めなかったが、平成 30 年度より再び「総合表現Ⅰ」を造形と身体表現領域を連携させた活動として実施することとし、担当者間で平成 28 年度の取り組みの反省を元に検討を重ねた。本報告に示す活動は、造形表現と身体表現で「素材の性状を捉えて表す活動」の 2 年目の取り組みの報告である。

### Ⅲ. 授業の概要

本科目での活動は半期 15 時間を大きく 3 段階に分けて実施した。まず、第 1 段階として、ガイダンス（1 時間）を行い、受講生を 2 グループに分け、造形または身体表現の活動を経験し、その後、入れ替えてどちらの領域の活動も経験した（4 時間ずつ、計 8 時間）。

次に第 2 段階として、二つの領域を連携させた活動を行い（1 時間）、それぞれで学んだことを統合させる。第 3 段階として、それまでの経験をもとに、園児を対象とした表現活動の計画（3 時間）と実践（1 時間）をし、授業全体の振り返りを行う（1 時間）という流れで平成 30 年度は実施した。2 回目の実施となった令和元年度は、前年の取り組みの反省をもとに、修正を加えて実施した。（図 1）

### Ⅳ. 授業の実際

#### 1 ガイダンス

##### 【第 1 回】

授業の概要と目標、計画を伝え、作品創作へのイメージを捉えるためのガイダンスを行った。その後、くじにより 6～7 名ずつの 12 グループに分かれた。それぞれ、あか、みどり、オレンジ、もも、き、きみどり、あお、みずいろ、ねずみ、おうど、しろ、うすだいい、のグループ名とし、グループ用ファイルの表紙を作成した。

#### 2 第 1 段階（各領域全 4 回、計 8 回）“造形表現、身体表現遊びの基礎技能の経験”

##### 【第 2 回～9 回】

6 グループずつがそれぞれ造形表現・身体表現に分かれて活動を行った。

##### 2-1 「造形表現」4 回分の活動記録（本時案）

##### 2-1-1 造形表現の基礎技能の経験

造形表現の領域では、①それぞれの素材の性質を理解すること、②一つの素材の性状を変化させて「遊びこむ」体験をすること、③子どもの遊びへの理解を深めることの 3 点を主なねらいとして、「新聞遊び」「風船遊び」「スズランテープ（「スズランテープ」は商品名であり、素材としてはポリエチレンテープが正式名称であるが、保育・教育現場では一般的に「スズランテープ」の名称で呼ばれているため、本論においても以下「スズランテープ」とする）遊び」「小麦粉粘土」

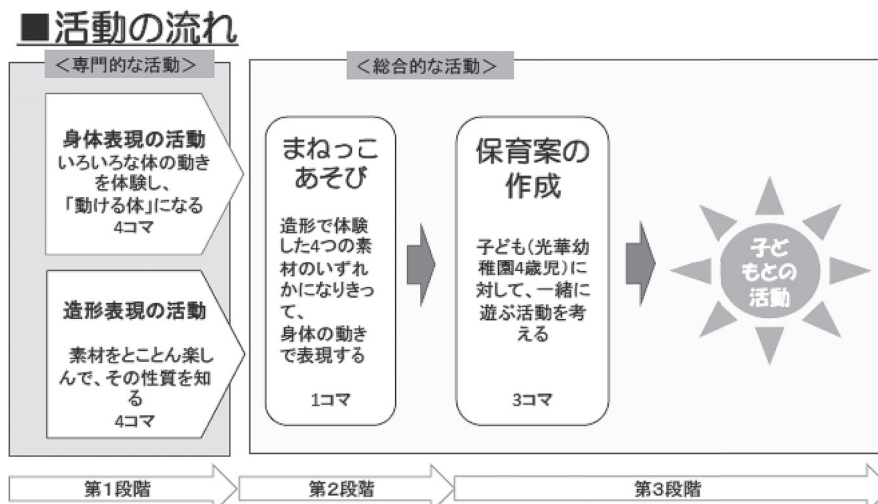


図 1. 活動の流れ

の4つの活動を行った。活動の詳細は以下の表1～表4に示す。

新聞紙、風船、スズランテープの活動については最初の20分は個人活動を図工室で行い、その後和室に移動してグループごとに自由に動き回れる環境で行った。小麦粉粘土の活動については図工室でグループご

とに分かれて実習用の机で行った。

各回の活動終了後、造形活動の振り返りとして、その日の活動記録と感じたことをイラストとオノマトペで表すワークシート（図-10）を記入した。最後に15回授業全体に対する振り返りシートを記入した。

表1.「素材の探求」活動記録 ～「新聞遊び」

時間	学生の活動	目的	環境構成・準備
0:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本『しんぶんしでつくろう』を見る</li> <li>・新聞紙がさまざまな活用された子どもの遊びが紹介されている絵本を見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞遊びの多様性を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本『しんぶんしでつくろう』よしだきみまろ著 福音館発行</li> </ul>
0:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞紙についての解説を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙としての性質と新聞としての性質について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙・説明用パワーポイント</li> </ul>
0:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人製作をする</li> <li>・縦に破る</li> <li>・紙鉄砲を作る</li> <li>・新聞ツリーを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙の性質（紙の目の方向性、音が鳴る、重ねて切って広げると房のようになる）を体験する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙、セロハンテープ、ハサミ</li> </ul>
0:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和室に移動する</li> <li>○グループ活動「新聞遊び」を行う</li> <li>・新聞を並べて道を作る</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くしゃくしゃに丸める</li> <li>・柔らかくなった新聞紙を使って身に着けるものを作る</li> <li>・縦に細長く裂く</li> <li>・紙吹雪のように細切れにちぎる</li> <li>・大きな袋に拾い集める</li> <li>・袋を結び「まくら」にして一休みする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並べて上を歩くことで空間が広がっていく体験をする。足で踏んだ時に音が鳴るを感じる。（図2）</li> <li>・丸める面白さを味わう</li> <li>・丸めた新聞紙を転がしたり、ボールのようにして遊ぶ</li> <li>・硬さの変化を感じる。手でリボン・ベルト・服など身に着けるもののイメージを広げながら形を作る。</li> <li>・目に沿って長く破る感触を味わう</li> <li>・目の方向に逆らって破る硬さを味わう、できた紙吹雪が舞い散る様子や海のようにして寝ころび、全身で味わう（図3）</li> <li>・集める楽しさを味わう</li> <li>・袋に集めた新聞紙の柔らかさを感じるとともに、落ち着いて活動の余韻を味わう時間を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙</li> <li>・45l 白色ごみ袋：2グループに1枚</li> </ul>
1:10	活動終了		



図2. 新聞紙の活動 並べて歩く様子



図3. 新聞紙の活動 紙吹雪を舞い散らせる

表2. 「素材の探求」活動記録 ～「風船遊び」

時間	学生の活動	目的	環境構成・準備
0:00	○『こぐまちゃんとふうせん』の絵本を見る	・風船遊びのイメージを広げる。巻末の著者メッセージからあそぶものとその状態によって活動が変化することを知る	・絵本『こぐまちゃんとふうせん』 森比左志・わだよしおみ・若山憲 著 こぐま社発行
0:05	○風船遊びについての説明を聞く	・風船の性質を知る ・子どもが実際に遊んでいる写真を見て今後の活動イメージを持つ ・風船遊びにおける保育のねらいについて知る	・風船、解説用パワーポイント
0:15	○個人で遊ぶ ・風船を膨らませて手を放し、飛ばす ・風船に絵を描く	・絵本の一部を体験する ・飛んでいく風船の様子（勢いや方向性）を感じる ・丸いものに絵を描く楽しさや自分独自のものになるうれしさを感じる	・風船、空気入れ、ペン
0:35	○和室に移動する ・自分で投げて自分でキャッチする ・頭、肩、腕、足など体のいろいろな部分で弾ませる ・2人以上でパスしあって遊ぶ ・複数の風船を結び付けて投げる ・うちわに乗せて運ぶリレーを行う ・二人で体に挟んで移動するリレー遊びを行う ・風船を集めてシートに入れる	・風船が飛ぶ様子を見る ・風船を介して体を動かしながら遊ぶ ・他者とコミュニケーションを図りながら遊ぶ ・3個以上結び付けると回転しながら落下する、スズランテープをつけると落下する軌跡がよく見えるなどの変化を味わう ・風船が落ちないようにバランスやスピードを調整しながら動くおもしろさを味わう（図4） ・風船を介して協力し合う楽しさを味わう ・風船がたくさん集まる面白さや色彩の美しさを感じる。上に乗る、トンネルのようにくぐるなどして体全体で風船の感触を味わう（図5）	・各自用風船、空気入れ  スズランテープ  ・うちわ  ・布団カバー（一部メッシュになっていて風船が見えるもの）
1:10	活動終了		





図 4. 風船リレーの様子



図 5. 風船を布団カバーに集めている様子

表 3. 「素材の探求」活動記録～「スズランテープ遊び」

時間	学生の活動	目的	環境構成・準備
0:00	○スズランテープ遊びについての説明を聞く	・スズランテープの性質を知る。 ・子どもの活動の写真をみて、実際にどのように遊びに活用されているかを知る	・説明用パワーポイント
0:15	○個人製作を行う ・テープをプロペラ状、8の字状にして、飛ばす ・小さなポンポンを作りストローで飛ばす ・リボンステッキを作る	・形の変化でテープの舞い落ち方が変わることを知る ・自分でプツと吹き飛ばす面白さを味わう ・ステッキを動かすとテープも軌跡に従って動く面白さを感じる	・スズランテープ (赤・青・白・黄・緑・紫・オレンジ・ピンク)、セロハンテープ、ストロー、新聞紙、ハサミ
0:30	○グループごとに1種類、合計6種類の共同製作を行う ・何を製作するかはくじで決める  ・制作物のテーマは「海」「風」「光」「くもの巣」「道具」「変身」	・6種の製作を行うことでスズランテープがさまざまに活用できることを知る (図6及び図7)  ・「海」: テープを10cm程度に切ったものをたくさん作り、そこに埋められたり、舞い散らせるなどして楽しむ  ・「風」: テープをのれん状にし、動かしたり、うちわであおぐなどして、風に揺れる美しさを感じる  ・「光」: 透明アクリル板にスズランテープを貼り、光に透ける美しさや重なりによる色彩の変化を感じる  ・「くもの巣」: くもの巣状にテープを張り巡らせ、それらをくぐって遊ぶことを通して、テープを介した体遊びを体験する  ・「道具」: ポンポンやステッキなどの手に持って遊ぶ道具を作る体験をするとともに、動かして遊ぶことを楽しむ  ・「変身」: ウィッグやスカート、ベルトなどの身につけるものを作り、実際に身につけて変身する楽しさを味わう	(グループ共通) ・スズランテープ、セロハンテープ、ハサミ  ・うちわ  ・透明アクリル板 (180×60センチ)  ・机、柱などを利用
1:10	○各グループの制作した作品を体験する (5分ごと) ・自分たちのグループ以外の所に行って、実際に体験して遊ぶ	・自分たちが作ったもの以外の製作物の面白さに気づく ・多様な表現があることに気づく	
1:10	活動終了		



図 6. スズランテープの活動 風を感じる



図 7. スズランテープを雨のように降らせる

表 4. 「素材の探求」活動記録～「小麦粉粘土」

時間	学生の活動	目的	環境構成・準備
0:00	○小麦粉粘土制作についての説明を聞く	・小麦粉粘土の作り方について知る ・小麦粉粘土活動における保育のねらいや活動の良さについて知る	・説明用パワーポイント ・作り方説明資料（配布）
0:15	○小麦粉粘土を作る ・道具をセッティングする ・粉をたらいに入れて、水、塩、油を加えてこねる（図8）  ・できた粘土で遊ぶ（図9）  ・後片付けをする	・保育活動における環境設定について学ぶ ・性状の変化とそれに伴う手触りの変化を感じる。（粉のさらさら～加水時のべちゃべちゃ、まとまってきたときの弾力・すべすべ感、伸びる感じ など）  ・できた粘土を丸めたり伸ばしたりして形の変化を楽しむ。 ・パンや動物など、具体的な形を作って楽しむ  ・環境設定の学びの一つとして、活動後の処理の方法について学ぶ  ・小麦粉粘土の発展的使用法について知る	・年長児が自分で粉から製作する場合を想定した準備物とする ・レジャーシート、たらい、計量スプーン、小麦粉、塩、油、  ・清掃用台ふき  ・説明用パワーポイント、着色用食紅（赤・青・緑・黄）
1:10	活動終了		



図 8. 小麦粉粘土 手触りを感じながらこねる



図 9. 小麦粉粘土を伸ばしている様子

2-1) - ii 造形版振り返りワークシートについて

各回の活動終了後、造形活動の振り返りとして、その日の活動記録と感じたことをイラストとオノマトペ（擬音語・擬態語）で表すワークシート（図10）を記入した。これは、活動を楽しむことだけにとどまらず、思い出しながら記録することで活動の意義について考

察することと、感じたことをイラストとオノマトペで表現することによって、自分なりに抽象化し、カタチとオノマトペという別の表現法で表すことをねらいとして行ったものである。また、次のステップである、「まねっこあそび」を考案する際のイメージの源泉として使用するねらいもあった。

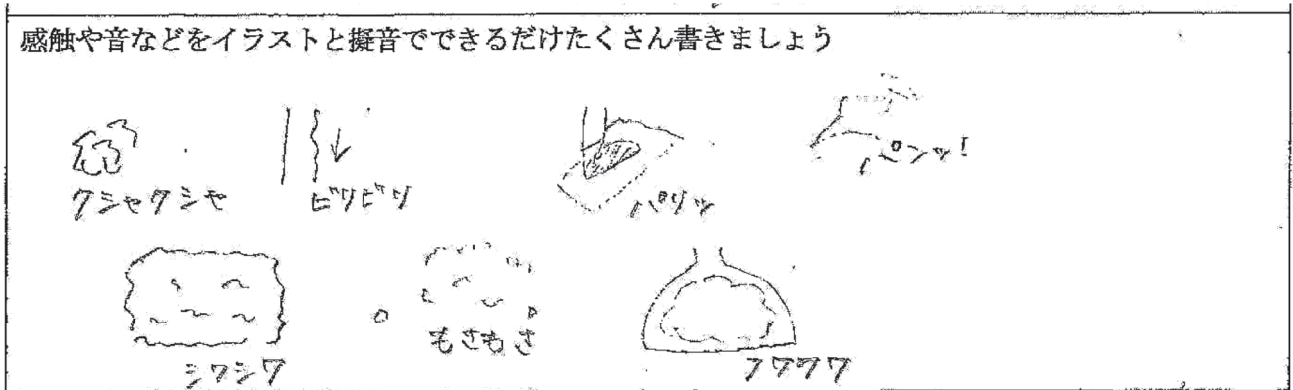


図 10. 造形版ワークシート記入例

2-2) 「身体表現」4回分の活動記録

- 身体表現の基礎技能の経験 -

「いろいろな音・リズムに合わせて、身体で表現することを楽しむ」ということをねらいとして全4回の身体表現の授業を行った。自分の感じていること、思っていることを自由に表現する経験をほとんどしていない学生に、まず、動くことを楽しむ、そして「動く体に気づく」さらには「動ける体になる」ということを目指して4回の授業を展開した（表5～表8）。

どの回の授業も、授業開始直後に「○○になってみ

ましよう」と声をかけても学生が活動することは期待できず、手遊びやフォークダンスなど、学生が取り組みやすい表現遊びから入り、次第に全身を使って動く活動、自分の感じていることを表現するといった、段階を経た流れで授業を組み立てた。また、毎時の終わりには活動内容の概要と各自が学んだことを振り返りシートに記入した。

第1回の授業では、慣れ親しんでいる遊びやゲームを導入として行い、自然と身近な物（動物など）の表現ができるような流れとした。

表 5. 「動きの探求」第1回活動記録

時間	学生の活動	目的	表現を引き出す工夫など
0:00	○手遊びで大きさ、速さなどの違いを表現する ・「お弁当箱」の手遊びをする ・「小さな庭」の手遊びをする ・「キャベツの中から」の手遊びをする	・大・小・速い・遅いなどの違いを表現する ・大・中・小の表現の違い、花の咲き方の違いを楽しむ ・ペアで花役と蝶役に分かれて、蝶になって舞うことを楽しむ	ぞうのお弁当、アリのお弁当、お母さんが寝坊した時など ぽっと咲いたりぱっと咲いたり、ぽっと咲いたり、音と咲き方を工夫して楽しむ
0:15	○ゲームをする ・「猛獣狩に行こうよ」のゲームをし、音節数のグループになり、グループ全員で動物を表現する	・大きな動物の名前を用意しておく、グループになったメンバーで協力して動物を表すことで、ダイナミックな動きを楽しむ	ライオン、アフリカゾウ、ナイルワニ、ふたこぶらくだ、キリンの親子など、大き目の動物の特徴をとらえてメンバー全員で動物を表す（図11）
0:30	・「じゃんけん列車」のゲームをする	・2両の列車になり、思い思いの列車になって動く。	2両以上にはならないようにし、汽車になる機会を確保する

0 : 40	○「みつばちマーチ」「キラキラ星」などの聴いて、合わせて歩く	・曲をリズム、テンポ、強弱、高低などを違えて弾き、曲に合わせて思い思いの歩き方をする	リズム、テンポ、強弱、高低などの違いが分かるように演奏する
0 : 50	○動きのモチーフのしりとりをする	・ブームワッカーのリズムに合わせて手拍子を打つ ・ブームワッカノールズムや音に合わせて自由に歩く ・各自8呼間間の動きのモチーフを作る ・8呼間の動きを一人が発表し、続いてその動きをみんなでまねる ・止まらずに発表・まねる動きを繰り返す	即興で簡単な動きを自由に行えるようにする
1 : 00	○具体的なことを表現する ・シャボン玉 ・新聞 ・洗濯物	・シャボン玉を作るところから空に飛んで行って割れる様子を表す ・配達された新聞になって、広げて読まれたり畳まれたり、くしゃくしゃに丸められたりする様子を表現する ・洗濯機に入れられた洗濯物になって洗濯機の中で洗われ、絞って干されるまでを表現する	できる限り詳しく様子を表す言葉がけをする
1 : 15	○先に挙げた3つの表現のうち一つを選んでグループで発表する	・他のグループの発表を鑑賞する	同じテーマでも様々な表し方があることを感じる
1 : 25	活動を終了する		

第2回は、導入に幼児向きフォークダンスを行い、リズムに合わせて体を動かすことを楽しめる流れとす  
ることで、はずかしがらずに動くことができるよう工夫した。

表6. 「動きの探求」第2回活動記録

時間	学生の活動	目的	表現を引き出す工夫など
0 : 00	○幼児向けフォークダンスをする ・キンダーポルカ ・セブン・ステップス ・おおスザンナ	・リズムに合わせてダンスをする ・セブン・ステップスは曲の速さが変化するので、曲をよく聞いてテンポに合わせて踊る	カウントを数えたりしながら一緒に踊る
0 : 25	○ブームワッカーのリズムに合わせて動く	・ブームワッカーを用いて、速い・ゆっくり・ワルツ・音の高低に合わせて体で表現する ・自分たちで鳴らしながら動いてみる	音と動きの表現を同時に行う
0 : 40	○いろいろな動物・昆虫になって動く とんぼ、ぞう、ライオン、ワニ、馬 など	・いろいろな幼児向けの歌曲に合わせて、その生き物の特徴をとらえて表現する	それぞれの生き物のイメージを持つような声掛けを行う



0 : 55	○形容詞の表すものを表現する (図 12)	・様々な物質の特徴をとらえてグループで表す ・あてっこをする	・長いもの ・丸いもの ・やわらかいもの
1 : 10	○粘土像を作る	・粘土役1人、作り手2人の3人一組で、粘土をこねるところから人のポーズを形作るまでを表現する ・粘土役を交代して行う	かたまりの粘土からこねて柔らかい状態へと変化し、作り手の思いのポーズをとった像を作るまでを表現する
1 : 20	活動を終了する		



図 11. グループで動物を表す



図 12. 「長いもの」になって

第3回の授業においても初心者でも楽しめるレクリエーションダンスから始め、一人の即興表現ができる

ような流れとした。

表 7. 「動きの探求」第3回活動記録

時間	学生の活動	目的	表現を引き出す工夫など
0 : 00	○幼児向けレク・ダンスを踊る ・畑のポルカ ・鬼のパンツ ・ウンパッパッ	・ポルカのリズムに合わせて動く ・いろいろなパンツの表現を楽しむ ・3拍子の曲に合わせて動く	最初は腕だけで動き、次第に体全体で3拍子の曲に合わせて動く
0 : 25	○動きのもチーフのしりとりをする	・ブームワッカーのリズムに合わせて手拍子を打つ ・ブームワッカノリズムや音に合わせて自由に歩く ・各自8呼間の動きのモチーフを作る ・8呼間の動きを一人が発表し、続いてその動きをみんなだまねる	2回目の経験であるので、即興でより大きく動くように声をかける 止まらずに発表・まねる動きを繰り返す
0 : 40	○具体物をグループで表す ・具体物の特徴を考え、表す	・楽器を表す ・文房具を表す	表す楽器を演奏している人や文房具を使っている人は表現しない。楽器

	・あてっこをする		や文房具そのものの特徴をグループで協力して表す
1:00	○オノマトペを表現する ・指導者が提示したオノマトペを個人で表現する  ・グループで考えたオノマトペを2分間の作品としてメンバー全員で表現する	オノマトペの音から受けるイメージはどのようなものか考え、表現する  同じ音でも、人それぞれ、受け止めたイメージや表現の仕方が違うことを感じる	
1:20	活動終了		

第4回の授業ではこれまでの経験をもとに、抽象的                      ループごとに作品として発表した。  
な内容である絵本『もこもこもこ』を取りあげ、グ

表8. 「動きの探求」第4回活動記録

時間	学生の活動	目的	環境構成・準備
0:00	○前回・前々回に行ったフォークダンスやレクダンスをする	・これまで経験したいろいろなダンスをする	
0:20	○太鼓のリズムに合わせて歩く ・自由に7呼間歩いて8呼間目で方向変換 ・自由に3呼歩いて4呼間目で方向変換	・「歩く」動きだけで表現する	
0:30	○様々なリズムを体全体を使って表現する	・手拍子から足ふみ、体全体を使ったリズム打ちを行う	
0:40	○絵本『もこもこもこ』（たにがわしゅんたろう さく・もとながさだまさ え 文研出版）をもとに、グループで作品を作る	・絵本をみて、どのように表現するのか、役割分担を考えて作品をグループで作る	・考えた動きを書き留めたり、空間の使い方を記したりするためのワークシートを用意
1:15	○『もこもこもこ』を発表する（図13）	・お互いの作品を鑑賞する	
1:25	活動終了		



図13. 絵本「もこもこもこ」の発表の様子

### 3 第2段階（全1回）“造形表現と身体表現を連携させて”

#### 【第10回】

第10回では、これまで並列に行ってきた各専門領域の活動を連携させる体験として、造形で用いた素材の「まねっこあそび」を行った。まず、これまでに受講した、造形表現、身体表現の活動を写真などで振り返り、次に「造形と身体の実験を統合させて、造形表現で用いた物質の特徴をとらえ、身体表現として表す」という取り組みの説明を受け、各グループが「新聞紙」「風船」「スズランテープ」「小麦粉粘土」のうち、どの素材を担当するか、くじ引きで決定した。

素材を決めてからは各グループ創作に入り、それぞれ造形のワークシートを見直したり、体を動かしたりしながら表現を模索した。言葉については、「○○をします」などの具体的な説明は避けるという条件のもと、身体の動きに合わせて物質の素材を表すオノマトペを中心に声を発しながら表現した。

それぞれの動きは保育案シートにまとめ、最終的には2分間の身体表現として作り上げた。最後に発表会を行い、発表と鑑賞を行った。発表は素材の特徴とその変化を身体の動きで表しながらも、学生の解釈や工夫、展開が含まれる表現であった。また、観ている側の学生もそれぞれ実際に体験している素材から生まれ

た身体の動きであるためか、発表者の表現に共感して、楽しみながら鑑賞している様子であった。

### 4 幼児を対象とした表現遊びの計画と実践

#### 【第11回】 絵本を選ぶ

「モノの性状が変化している様子が含まれている」ことを観点に、筆者らが以下の絵本を選定し、学生に示した。学生はそれぞれの絵本を手にとって検討し、各グループ1冊の絵本を選び、その内容に基づいて保育の内容を考案した。学生は第10回の取り組みを思い出しながら、保育への活用を見据えた視点で絵本を見比べながら選定していた。

#### 【第12回】 保育案を立てる

第12回では、選定した絵本を元に、保育案を立案した。第10回の活動があったため、絵本の内容を身体で表現するという点においては抵抗なく取りかかれたが、今回は自分たちの発表を見せるのではなく、園児を対象に約10分の保育を実施する、ということが大きな違いとしてあり、表現を作り出すだけでなく、園児に何を伝えるか、どんなことを味わってもらいたいか、どんな力が育って欲しいか、等といった保育者としての視点を持つことに難しさを感じている様子であった。

表9. 提示した絵本

タイトル	著者	発行
しろくまちゃんのほっとけーき	森比左志・わだよしおみ・若山憲	こぐま社
おふとん かけたら	かがくいひろし	ブロンズ新社
みず ちゃぼん	新井洋行	童心社
つち どすん	新井洋行	童心社
かぜ びゅんびゅん	新井洋行	童心社
ひ ほうほう	新井洋行	童心社
ねんどの むにゅ	新井洋行	偕成社
ぐるぐるせんたく	矢野アケミ	アリス館
ぐるぐるジュース	矢野アケミ	アリス館
あめかな	U. G. サトー	福音館書店
どろだんご	たなかよしゆき・のさかゆうさく	福音館書店
カレーライス	小西英子	福音館書店
しゃぼんだまと あそぼう	杉山弘之・杉山輝行・吉村則人・平野恵理子	福音館書店
ハンバーグ ハンバーグ	武田美穂	ほるぷ出版
スライムびびび	原ペコリ・長田かおり	スクウェア・エニックス
なみ	スージー・リー	講談社
いろがみ びりびり	まつながあき・はやしるい	くもん出版

### 【第13回】リハーサル

第11、12回の活動をふまえ、リハーサルを行った。この回の振り返りでは「どのあたりに子どもに居てもらおうとよいか分かった」「間をあけないようにしたい」「言葉のかけ方をもっと考えておきたい」といった意見が多く見られ、本番に近い状況で動いてみたことによって、空間の使い方や間合いの取り方、言葉かけや声の大きさなど、グループ活動だけではわからなかった、実際に保育を進めていく上で大切にしたい事柄についての気づきが見られた。

### 【第14回】4歳児を対象とした実践

2020年1月15日9:30～11:00、K幼稚園年中児を対象に保育実践を行った。京都光華女子大学和室の空間を2つに区切り、約20名ずつの園児を対象として、それぞれのグループが保育を行った。実際の園児を前にして、予想外の反応に戸惑っている場面も見られたが、園児に伝えるだけでなく、園児の表現を受け止め、そこから広げていく対話的な保育を行っているグループも見られた。学生にとって園児の反応があることは、それがうまくいく、いかないに関わらず、モチベーションを高め、より多くの気づきをもたらす効果があった。

### 【第15回】振り返り

第15回では、保育発表会のビデオを見ながら、授業全体の振り返り課題のレポートを実施した。この振り返りから、学生が学んだことについて、次章Ⅳ-2 振り返り課題から読み取れることで考察を行う。

## Ⅳ. 考察

### 1. 毎回の振り返りシートから読み取れる事

本取り組みでは、学生が毎回の授業について学んだことを振り返り、次への展望を持つためのワークシートを作成、各授業終了時に記入していた。本稿では、造形表現と身体表現の活動が交わり、両者を融合させた体験として学生が何を学んだかを明らかにするために、第10回目の活動振り返りに注目し、分析する。学生の記述を読み解くと、①表現モチーフを理解することと表現の関連、②表現の多様性に対する気づき、③自分自身の変化、④オノマトペに関して、の4つの視点についての記述が多くみられた。

### ①表現モチーフを理解することと表現の関連

#### 学生の記述

- ・性質を理解してやってみないとわからないことがあると思いました。
- ・性質を考え表現しようと動作を考えた
- ・実際にスズランテープを使って活動したことによって、どのような動きが表現できるかアイデアが浮かびやすかった。
- ・表現するものの理解をしっかりとする必要がある
- ・実際にその物質を使っての実践があったからこそ表現できた
- ・他のグループの発表を見ているときも、それらの素材を経験したからこそわかる表現があり面白かった
- ・風船がふくらんで、しぼんで、ぶつかって、割れて…を上手に表せたと思います
- ・風船のさまざまな楽しみ方を表現した
- ・スズランテープが丸まっているところからほどいていく部分を表現するのが難しかった。

以上の記述から、学生達が造形表現の活動時に、実際に素材を様々に使って遊び込んだ経験から、素材への理解が深まったこと、その時に感じた特徴や面白さを元にして身体表現を作ろうとしたこと、また、鑑賞時にも自らの体験と照らし合わせて作品を読み解いていたことが読み取れる。本活動では表現のモチーフを造形素材としたが、他のものを表現する場合でも、その表現の核となるモチーフに対して理解を深めることが、その後の表現の豊かさにつながると考えられる。

### ②表現の多様性に対する気づき

#### 学生の記述

- ・同じものでも表しているものが全然違って、たくさんの表現の仕方があることがわかった。
- ・同じ小麦粉粘土でも全く違う表現があって見てすごく面白かった。
- ・自分のグループでは表現することが難しいと感じ、あきらめていたことを他のグループは表現していて勉強になった
- ・表現の仕方が人それぞれで個性が出ていておもしろかった

互いに発表し合う活動を通して、同じものを題材としていても、表現の仕方はそれぞれ異なっており、その多様性こそが面白い、ということに気づいた学生も多く見られた。今回のレポートでは、ほぼすべての学生が、多様な表現に対して「面白かった」と肯定的に記述している。自分自身とは異なる表現方法に触れることによって、鑑賞者自身の感性も刺激され、表現の



豊かさにつながっていくと考えられる。

### ③自分自身の変化

学生の記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に比べると表現の仕方のバリエーションが増えたと自分でも感じた</li> <li>・体で表現するのは楽しいものだと思います。</li> <li>・今までの授業で、感触や音を考えながらしていた意味が分かりました。小麦粉粘土を体で表現するのは難しいと思っていたけれど、表現することができて、初めの頃より表現力がついたと感じた。</li> <li>・一つの表現が出てくるといくつも思い浮かんで楽しいと思えた</li> <li>・モノを体で表す楽しさがわかった</li> <li>・造形活動と身体活動がまざって一つの作品ができると思っていたが、小麦粉粘土を作るところから細かいところまで表現できた</li> </ul>

これらの記述からは、身体表現の面白さについて気づいたこと、感触や音など様々な感覚を使いながら表現活動を行うことによって、学生自身の表現方法が開拓されていったこと、それらを楽しみながら活動を進めていたことが読み取れる。その結果、学生が自らの表現方法が増えていったという実感を持った様子が読み取れる。表現方法が増えることによって、表現することに自信が付き、表現を「楽しめる」という循環が生まれていた。

### ④オノマトベに関して

学生の記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オノマトベ「びりびり」や「ヒラヒラ」などを使って表現することを意識しました。</li> <li>・オノマトベをつけながら動くことで伝わりやすくなった</li> <li>・オノマトベも素材感を大切にしたいものにした</li> </ul>

オノマトベの面白さに気づき、造形と身体だけでなく、声やリズムの面白さを表現として取り込んでいる学生も多く見られた。

これら①～④の学生の学びから、造形活動時に素材が変化する面白さやその時の手触りなどの身体感覚、質感をオノマトベで表現することを体験し、その感覚を軸にして身体の動きによる表現を模索していく過程で面白さを感じたり、表現の幅が広がっていく感覚を味わっていることがわかった。また、鑑賞時も他者

への共感と差違を多様性として楽しむ感覚を同時に味わう経験となっていたことが読み取れる。このことは、幼児の表現遊びを考える際に、作ること・動くことが分離した活動ではなく、様々な要素が包括的に含まれるものとしてとらえるという本授業のねらいと合致したものである。

## 2. 授業全体の振り返り課題から読み取れる学生の学びについて

本授業の最終課題として、「設問1. 造形表現・身体表現の各領域から学んだことは何ですか。領域ごとに書きましょう。」「設問2. 性状の変化を表した絵本をもとに、幼児を対象とした保育に取り組みました。この保育実践から学んだことは何ですか。」「設問3. 「総合表現Ⅰ」の授業で学んだことを今後の実習や保育にどのように生かしていきたいと考えますか」の3つの設問からなるレポートを実施した。以下にこの課題から読み取れる学生の学びについて記述する。

### 2-1(1) 造形表現面における学び

造形表現の領域では、①それぞれの素材の性質を理解すること、②一つの素材の性状を変化させて「遊びこむ」体験をすること、③子どもの遊びへの理解を深めることの3点を主なねらいとして取り組んだ。

ねらい①素材理解については「様々な素材に触れ、(中略)触るだけでなく、音やにおいなどからもその素材について感じる事ができた」「物の性質は一つ一つ違い、(中略)それぞれに特徴があり、遊び方もさまざまであることを学びました。」と活動を通して各素材の性質を感じ取ったことが伺え、さらに「それぞれの物がどのような性質を持っているのか理解し、その物の性質をしっかりと感じる事ができる経験を子どもたちに取り組みさせてあげることが大事と学びました」と子どもに素材を用いた体験を提供するためには保育者が素材を理解しておくことが重要であることにも気づいていた。

ねらい②遊びこみ体験に関しては、「遊び方は一つではなく、工夫や自分のとらえ方を変えることによってたくさんの遊び方があることがわかった」という意見が多数みられた。さらに「作って表現する過程で出てくるオノマトベが言葉の表現になったり、色や形、感触、におい、音など様々なことから言葉にしたり、

絵や作品に表現できることを学んだ」と表現の展開可能性についても記述している。

ねらい③子ども理解に関しては、「子どもがものを使った遊びのどのようなことに興味を持っているのかを学びました。」「破る音、感触、ひらひらしているものや飛ぶものを見るということなど、子どもにとって、気になること、楽しめることはたくさんあるということが分かった。」と子どもの立場に立った表現の楽しみ方を感じ取り、それらを自身の学びとしている学生が多くみられた。さらに「遊びから発達につながることもわかった」と子どもの育ちと関連付けて考察したり、「物の変化は子どもにとって初めて見たり触ったりするものも多く、一つ一つの動きに対する子どもたちの反応や気づきを大切に共感していくことが重要だと感じた」と共感する働きかけの大切さに気付くなど、保育者として子どもを理解しようとする姿勢が見られた。

## 2- (2) 身体表現面における学び

「いろいろな音・リズムに合わせて、身体で表現することを楽しむ」ということをねらいとして計4回の授業での活動を実施したが、受講生が「動く体に気づく」さらには「動ける体になる」ということが最終的な目標であった。

振り返り課題の身体表現面にかかわる記述には、以下のような記述が見られた。

「身体を動かして表現することの楽しさの経験」ができたことや、「感じたこと、思ったことを自由に表現する面白さ、心の発達にもつながる」、「身体で表現することの楽しさ、想像することの楽しさ」などを経験しており、これらの記述から、これまであまり身体で表現することを経験してこなかった学生たちも、身体で表現することの楽しさを経験できており、当初に設定した最も基本的なねらいは達成できたのではないかと考える。さらに、「言葉だけがコミュニケーションの方法ではない」、「言葉では伝えられないことを伝えることができる」、「自分の表現の幅が広がった」や、「身体は色々な動きができることを感じた」、「表現の仕方の違いは無限大。表現に終わりはなく色々な表現が生まれる」といった、身体表現の可能性にも気づいている。

また、グループ活動において、メンバーと意見を交

わす中で、「身体を動かすことで友達との中が深まり、活動を楽しめる」、「自分自身が他人を認めることができた」といった、自分以外の考え方や表現の仕方の存在を認め、「自分なりの表現をすることが大切。表現に正解はないので想像力を豊かにすることが大切」、「色々なものを表現することで、自由な発想が生まれる」という、グループメンバー間で互いを認め合うことや、協力して活動することにより、より良い表現が生まれたり関係が円滑になったりすることを感じていた。

## 2- (3) 保育活動における学び

造形表現と身体表現を連携させた取り組みを保育活動につなげるために、物質の性状を扱った絵本を取り上げ、4歳児を対象に、保育案をたてての活動を展開した。それについて学んだこと、感じたことを振り返り課題でも尋ねている。学生の記述は主に次の4つの内容にまとめることができた。

### ①子どもの表現に関する気づき

学生の記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>・思っていたより子どもたちは発想が豊かで、身体を使った活動がとても好きだと学んだ</li> <li>・どのような動きにするか事前に決めていたが、それとは全く違うような動きを子どもが表現している姿を見て、とても素敵な想像力だと思った</li> <li>・想像していたよりも、実際の子どもたちはとてもバリエーションが豊富で、予想外の出来事がたくさん起こった</li> <li>・大人と子どもとは、物事の捉え方が異なる</li> <li>・手先だけの動きではなく、体全体を使ったほうが楽しそうにやっていた</li> <li>・大人は（略）固定観念を持っているが、（略）子どもたちは一つの擬音で何種類かの動きをする</li> <li>・この実践から学んだことは、表現をする楽しさ</li> <li>・「この動きはどんな動きかな」と尋ねるといろんな動きがあり、子どもたち自身が感じたまま身体で動くことが大きな学びであり、そして豊かな表現力や感性を持つことに繋がっていくのだと感じた</li> <li>・子どもたちは擬音が好き</li> </ul>

子ども達の表現活動の様子を見るのは初めての学生が多いこともあり、子どもが素直に表現を楽しみ、思ったことや感じたことを表現する姿を新鮮にとらえている。表現することは楽しいという認識を新たにしていることが読み取れる。

## ②指導方法に関する気づき

学生の記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちとコミュニケーションをしっかりとりながら、臨機応変に活動してることが求められると感じた</li> <li>・子どもとのコミュニケーションを大事にしながら、表情を見ることが重要だとわかった</li> <li>・子どもたちが自主的に楽しく表現できるような環境作りの難しさを学んだ</li> <li>・子どもたちと一緒に身体を動かす楽しさや、保育者自身が身体を大きく使い表現を楽しむと、子どもたちもより大きく身体を動かして楽しんで活動してくれると学んだ</li> </ul>

①でとらえた、子ども達が表現活動を楽しむ姿を引き出すには、保育者としてどのようなことが大切かということへの気づきをあげている記述が見られた。保育者自身が楽しむこと、大きな表現をすること、環境設定が重要であることを学んでいる。

## ③教材としてのまねっこあそび

学生の記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本のまねっこあそびは身体を動かすこともできるし、発想や考える力を身に付けることができる</li> <li>・絵本はただ読むだけではないということに改めて気づくことができた。読んで、話を理解して想像したり、なりきったりと様々な遊び方や学びがあると知ることができた</li> </ul>

絵本はただ読み聞かせをするだけではなく、一冊の絵本を元に、いろいろな形の教材へと発展する可能性に気づいたという捉え方が見られた。

## ④総合的な表現活動としての捉え方

学生の記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活で子どもたちがしていることを身体で表現できるということがわかり、(略)表現するものやことはたくさん周りにあふれているということがわかった</li> <li>・子どもたちが心から楽しめる保育・活動を取り入れ、主体的に活動に参加できるような内容を考え、実践することが大切だと感じた</li> </ul>

一つのを題材に、音楽・造形・身体・言葉の各表現領域にとらわれず、自由に表現活動を発展させていく可能性の気づきが見られた。様々な活動に発展させることへの気づきも含め、表現活動となりうる素材

は日常の生活の中にあり、また、子どもたちが様々な方法で表出することを保育者もしっかり受け止めることが重要である。

## 2-(4) 両者を融合させた活動における学び — 『『総合表現 I』の授業での学び』の記述より —

筆者らは、造形表現と身体表現を連携させた新たな活動を模索しながら学生に提供してきた。一般的にはあまり連携するととらえられていない二つの領域を連携させた活動を経験することで、これまで行われてきた総合的な表現活動とは異なる、自由な表現様式を用いた活動が展開できるという視点を学生が持つようになることであった。

振り返り課題の記述からは、「造形表現と身体表現は表現の仕方は違っても自分の思いを伝えるという点は似ている」という、同じことを他者に伝えるにしても、様々な表現方法があるということに気づいたり、「今まで運動(身体を動かすこと)と表現したりすることは別のこととして考えていた。しかし、その領域を超え、身体での活動を(造形:筆者補足)表現での活動に結びつけることは可能なのだと知った」という、自分の中に新たな視点を得たというような気づきを記した物が見られた。そして、「表現の仕方はとても幅広くあり、いろいろな表し方があることを知りました。子どもたちと接する時は一人一人の想像力や表現力を大切にしていきたいと思った」と、子どもの表出を大切に受け止めていくことの重要性に気づいているものも見られ、多くの受講生が表現のし方や広がりは無限大であることを感じているといえる。

## V. まとめと今後の課題

本稿では学生による振り返り課題の記述を元に、造形表現と身体表現を連携させた活動について考察を行ったが、今回の2領域の活動を連携させた活動の体験は、将来保育者になる学生が、子どもの自由な表現活動を引き出したり、表現の多様性を認めたり、子どもの表出を受け止めるという視点から考えて、一定の効果が認められたのではないかと考えられる。保育者を目指す学生のさらなる豊かな感性や実践力を身につけるためには、今後も授業担当者が継続して授業内容の検討と工夫が必要であると思われるが、造形表現と

身体表現を連携させたクロスカリキュラムの有用性が認められたと言えよう。

現行のカリキュラムでは、「総合表現Ⅰ（造形表現と身体表現の連携）」の履修に加えて、学生は「総合表現Ⅱ（音楽と音・声）」を履修後、4領域を連携させた「総合表現Ⅲ」を履修することとなるが、「総合表現Ⅰ」で確認した表現活動をさらに深め、豊かな感性を備えた保育者を養成できるよう、検討を重ねていきたい。

### 注

- 1) 智原江美・下口美帆・和田幸子、総合表現のこころみ—音・動き素材—の探求を通して—、京都光華女子大学研究紀要第57号、pp33 - 46、2019
- 2) 平成26～28年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C) 課題番号26381297「保育者養成における領域『表現』へのクロスカリキュラム導入に関する検討
- 3) 智原江美・鍋島恵美・和田幸子・下口美帆・田中慈子、幼稚園・保育所における表現領域の活動に対応した保育者養成教育のあり方—京都府南部の幼稚園・保育所へのアンケート調査からの検討—、京都光華女子大学研究紀要第53号、pp119 - 134、2015
- 4) 智原江美・鍋島恵美・和田幸子・田中慈子、アンケート調査からみた保育者養成校における総合的な表現活動に関する授業の実施状況、京都光華女子大学研究紀要第54号、pp197 - 208、2016
- 5) 智原江美・下口美帆、大学における科目を連携させた授業の取り組み—「図画工作」と「幼児体育」の授業実践報告—、京都光華女子大学短期大学部研究紀要第46集、pp195 - 219、2008